

共立女大家政 御船美智子

目的 現代家計の変容として特徴的な点は『個別化』である。本報告は、三世代家族の家計を対象に、その家計の構造と家計費の構造を明らかにして、家計の分離や分離した家計間の関わりがいかなる形で行なわれているのか検討し、家計の個別化の側面について、実証を試みる。

方法 静岡県掛川市の高齢者世帯を対象に、昭和60年10～11月に行なった「高齢者生活総合調査—家計調査」の個別データから、高齢者夫婦と子家族からなる世帯と、高齢者と子家族からなる世帯を取り出し、家族形態別に家計の構造を分析し、さらに家計構造を類型化し、家族形態別・家計構造類型別に家計費分析を行なった。

結果 従来、家計分析が前提としてきた「1家族1家計」型の家計は非常に少ない。特に高齢者が夫婦で健在な三世代家族においては高齢者独自の家計をもっている。高齢者と子家族の各家計の関わりは5タイプ存在し、最も多い型は、高齢者夫婦の家計から子家族家計に金銭移転しない型であり、次に、高齢者夫婦が主な家計を担い子家族家計から金銭移転のある型が多く、子家族が主な家計を担い高齢者家計から金銭移転のある型が続いた。高齢者家計にも子家族のための生活費支出があり、逆に子家族家計にも高齢者のための生活費支出があり、そうした実質的な生活費負担も考慮すると、子家族から高齢者の家計への純経済的移転は、金銭移転しない型でも5万円ほどである。しかし、逆に高齢者から子家族に3.5万円移転する型も存在し、これは高齢者と子家族の経済力格差によるところが多い。